

教科名

保健体育

	学力調査・体力調査・定期考査等の分析	指導方法の課題	授業革新に向けての具体的な手立て
7 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・持久走の記録が低い。これまでの体力テストでは20mシャトルランを選択していて、感覚的に力を出し切れなかった生徒が多かった。また、運動会が6月上旬にあり、気温が少し高くなりだしてからの実施となったことも一因と考えられる。 ・定期考査は全体的に平均点が低く、「思考・判断・表現」の記述問題に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ねらい」と「振り返り」の関係を見直す。生徒に「ねらい」を明確に提示し、「ねらい」に沿った「振り返り」を行うことで授業のつながりや単元のつながりを意識させる。 ・実技時間と振り返りの時間確保のバランスに課題がある。生徒の実態に合わせて、柔軟に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用が得意な生徒が多いので、動画撮影を行い、自己の技能を客観的に振り返る機会を多く設け、意欲を高める。 ・学習カードの内容を見直させたり、仲間と意見交換する「振り返り」を充実させたりして、自己の考えを記述できるようにする。 ・保健体育の授業では、学習方法も伝えながら知識を深める授業内容を展開する。
8 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・持久走は全体としては向上していたが、立ち幅跳びは全体的に記録が伸びなかった。運動会前に走運動は行っていたが、それ以外の運動が出来なかったためであると考えられる。 ・定期考査は全体的に平均点が低く、勉強時間が少ないと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を撮影し、自分の課題発見に努めているが、実技時間（運動量）の確保に課題がある。体力維持・向上のためにも運動量を確保できるように、授業の時間配分を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や場の工夫、ペアやグループ活動の役割を明確にすることで、一人一人の活動時間を確保し、より多くの運動量を確保する。 ・ICT機器を活用し、互いの課題を見付けたり改善したりすることで、主体的に活動に取り組み興味・関心を高める。
9 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・持久走は全体的に伸び悩んだが、長距離の授業をしていた時期と比べると、自分の目安が作れなかったことが原因と考えられる。気になった点は、長座体前屈の得点も低い、日常の体育の授業内での柔軟性のなさに課題を感じる。 ・定期考査への取り組みは全体的には良好であるが、二極化が目立ち、結果にもあてはまる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスにより課題はあるが、効率の良い授業展開にし、協働学習の学びの場を大切にする。話し合いが円滑にいくように、適切な声かけをする。 ・ICT機器を活用する際に、時間がかかる場面がある。目的を明確にし、生徒の意欲を高め、主体的な学習態度を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技については、さらに自分たちの課題発見に役立つようICT機器を活用し、解決方法を考える力を育みたい。また、座学の時に、理想的なフォームや動きの手立てになるような動画を視聴させる。 ・保健や体育理論については、ICT機器の活用だけでなく、より身近なこととして感じられるように話し合いも積極的に取り入れ、読み解く力を身に付けさせる。